



鶴居村

つるい 議会だより

子ども達の「未来の笑顔」のために



下幌呂小学校 新一年生

3月定例会

28年度予算・・・P2～P5

28年度予算 Q&A・・・P6～P7

7人が村政を問う！

一般質問・・・P11～P17

意見交換会

総務意見交換会・・・P20～P21

産業意見交換会・・・P22～P23

住民の声・・・P24



the most beautiful
villages
in japan

鶴居村
北海道



積極的な予算配分

3月定例会

1億3200万円増（一般会計）

5100万円



鶴居中学校卒業式

6特別会計との総額 45億4230万円

平成28年度 一般&特別会計予算

会計名	本年度予算額	今年度予算額	増減額	前年度比	
一般会計	36億5100万円	35億1900万円	1億3200万円	3.8%	
特別会計	水道	4210万円	4400万円	▲190万円	▲4.3%
	農業集落排水	6890万円	6720万円	170万円	2.5%
	国民健康保険	4億2340万円	4億4060万円	▲1720万円	▲3.9%
	診療所	8120万円	8360万円	▲240万円	▲2.9%
	介護保険	2億4290万円	2億3740万円	550万円	2.3%
	後期高齢者医療	3280万円	3150万円	130万円	4.1%
	小計	8億9130万円	9億430万円	▲1300万円	▲1.4%
計	45億4230万円	44億2330万円	1億1900万円	2.7%	

※1：骨格予算とは、選挙時期などの関係から、政策的な判断ができていくなどの事由により、人件費など、必要最小限度の経費を計上する予算です。



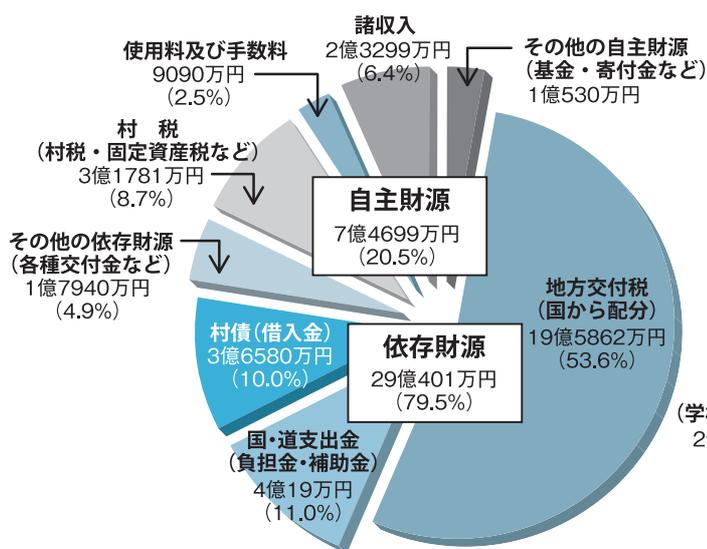
28年度 予算

堅実な中にも

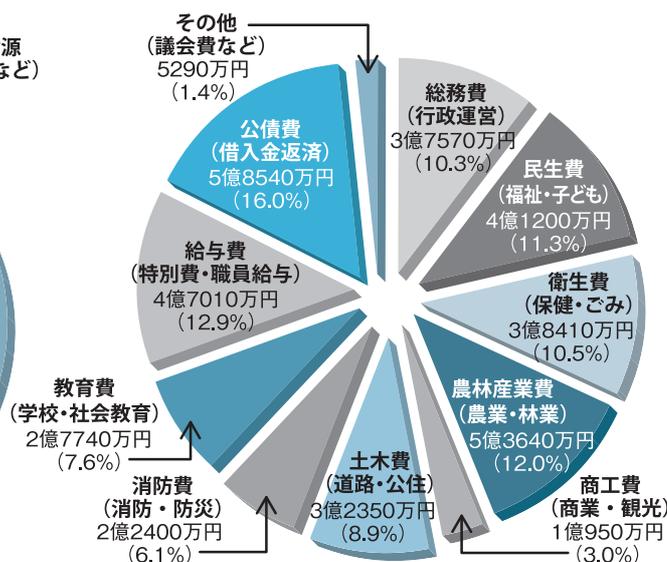
※1 骨格予算ですが、前年比

平成28年度一般会計 36億

一般会計 歳入予算



一般会計 歳出予算



平成28年3月末の地方債(借入金)と基金残高(貯金)の状況

平成28年3月末人口：2509人

項目	金額	村民1人当たり	備考
地方債残高(借入金)	43億0544万円	172万円	見込み額
基金残高(貯金)	68億3238万円	272万円	
差引	25億2694万円	100万円	

272万円－172万円＝100万円《実質村民1人当たりの基金残高》



役場庁舎執務室等
改修工事



781万円

窓口カウンター
更新等事業



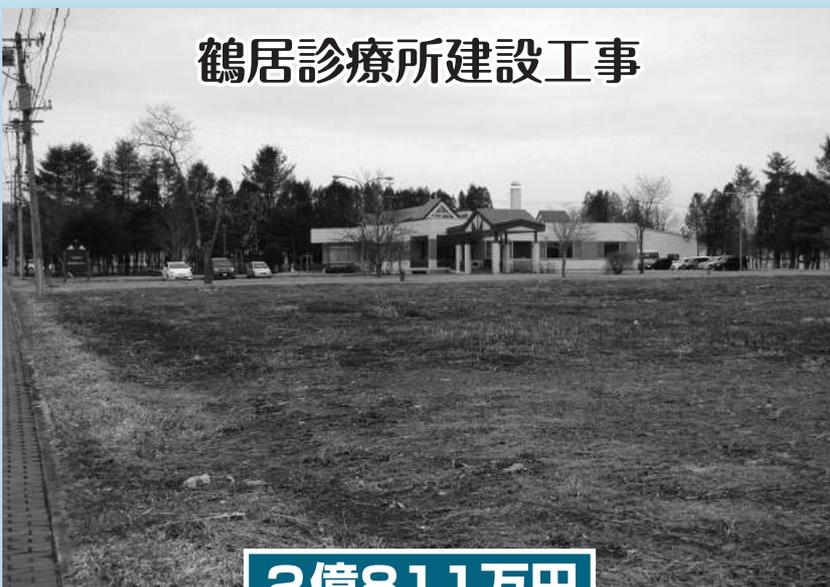
867万円

鶴居D団地地域優良賃貸住宅建築工事



9820万円

鶴居診療所建設工事



2億811万円

今年の注目事業 まちの賑わい創出と医療施設の充実





村税コンビニ収納 運用事業



290万円

防災用広報 サイレン設備工事



4800万円

移住・定住 web広告事業

Yahoo!サイトに
広告掲載!

250万円

道東自動車道観光推進看板



915万円

幌呂「九間橋」補修工事



2500万円

鶴居タンチョウプラザ指定管理委託



1500万円



平成28年度予算審議

今回は、村長選挙の年なので骨格予算となっており、一般会計予算36億5100万円、特別会計予算 8 億9130万円の合計45億4230万円の審議を行いました。

秋里広志議員

解消のため、無線でネットワークに接続する通信設備を設置します。

体を温める設備になっていないので、現状では考えていません。

松井広道議員

大津泰則議員

問 村には多くの委員会があり、各委員の選考はそれぞれ選考基準にそって選出していますが、同じ人ばかり選ばれているという声も耳にします。選考方法を検討しては？

答 各団体の長や事務局長など、各分野の詳しい人を選考すると、同じ人が複数の委員会に所属することになってしまいうので理解して欲しい。

問 高齢者肺炎球菌ワクチン予防接種の接種時期は？

答 65歳から100歳までの対象者に個別通知をしてお知らせしています。過去に任意接種している人もいるので接種率は50%くらいです。

問 中久著呂地域防災機能強化通信設備工事1026万円の内容は？

答 携帯電話の不感地域

問 環境省がタンチョウの分散化をはかるために給餌量を一割削減しました。次年度はさらに一割削減する方針のようです。分散化することにより、本村の大切な観光資源でもあるタンチョウが減少し観光業に影響を与えることや、分散化せずに、餌を求めるタンチョウによる農業被害が拡大する心配は？

答 大変重要な問題なので環境省と協議の場を作り、保護や被害など色々な方面の話し合いをしたかと思っています。

問 村民プールの温風暖房機を400万円で更新しますが、プールの水を温める考えは？

答 現在、プールの水全

問 地域特産品等開発事業補助金100万円の対象に、地元商工業者も入りますか？

答 開発チームで村内の食材などを使った特産品の開発を行います。地元商工業者も対象なので、開発チームと協力してより良い特産品を作って欲しいと思っています。

問 学校などのアスベスト調査をする理由は？

答 27年度に下幌呂小学校のボイラー室の煙突に、一部アスベストが使用されているので対処しました。今回は調査の基準改正を受けての調査です。

問 役場職員のストレス検査を今回はじめて実施しますが、村としての対応は？

答 57項目のストレス調査の分析結果を、役場の指定医師が個々の職員に通知します。

その結果、高ストレスと診断された職員からの申し出があれば、村は専門医師の紹介を行います。

東 隆行議員

問 醸造用ぶどう特産品開発事業の状況は？

答 27年度は200kg以上の収穫がありました。ワインにするにはまだ足りない状況です。28年度は500kgの収量を期待しています。

問 箱わな作成委託156万円の内容と、キツネへの対応は？

答 大きな熊にも対応できる熊の箱わなを2台と、移設可能なカラスの箱わなを1台作成します。

問 戦没者忠魂碑改修工事327万円の内容は？

答 台座を御影石で覆うなど、柵も含めて全体的な改修を行います。



ストレス溜め込んでいませんか？

45億円の事業効率化は？ 費用対効果は？

松井宏志議長と吉田保博予算委員長は質問する立場にはありません。

佐藤吉人議員

問 コンビニで税金の支払いができるようになりますが、住宅料などへの対応は？

答 今回は住民税、固定資産税、国保税、軽自動車税の支払いが

28年度課税分からコンビニでもできるようになります。住宅料や保育料など使用料の取り扱いは今後検討していきます。

問 釧路と標茶を結んでいる道内唯一の「S」冬の湿原号に、本村の保育園の冬の遠足として



保育園冬の遠足

乗車することは？

答 全園児を対象に「S」冬の湿原号」に乗車する予定です。

問 世界中からカメラマンが訪れる音羽橋で、カメラの盗難がありました。マナーや注意を英語、中国語、台湾語で表記しては？

答 今後もさまざまなトラブルが予想されるので、各関係機関と協議して対応します。

及川満浩議員

問 下幌呂「希の杜団地」

の販売促進などのためのウェブ広告83万円の内容は？

答 PC版のヤフーに1年間、鶴居村の広告を掲載し、移住定住の促進と村のPRを行います。

問 村とJAや農業関係機関などの取り組みや協議はどのように？

答 1月に数年ぶりに営農改善推進協議会を開催し、村長、組合長を始め関係機関を交えて農政の意見交換をしました。今後、担当者でこの協議会で何ができるかを協議し、営農の改善や草地更新、担い手対策など具体的な施策を実施したいと思っています。

問 人材不足の介護・福祉・医療資格や建設業界の重機資格など、資格取得に助成することも必要

では？

また、有資格者の人材活用をさらに推進すべきでは？

答 取得費用の助成や奨学金制度を独自に創設することなどは、今後検討が必要ですし、これは全国的な問題でもあるので国への提言も必要と考えます。

松井洋和議員

問 阿寒バスへの高校通

学バス運行補助金が倍増されて410万円になっているのは？

答 高校通学バスの利用者の大幅な減少が理由です。また、釧路市のバス停「北斗橋」まで保護者が送迎し「通学マイパ(3ヶ月定期が23280円)」を利用してはいる学生が増え、バス通学者の4割ほどとなっていることも大きな要因です。

問 総合教育会議で教育

長は、小学校の児童数の

減少について発言していますが、その詳細は？

答 児童数が現状のまま推移した場合の仮定の話ですが、鶴居小学校は平成31年度の新入生は5人の予定となっており、1年生時は単式学級ですが、2年生から複式学級となります。

また、幌呂小学校は平成31年度の新入生は1人、32年度も1人、33年度も1人となり、33年度には全校児童数が10人となり、先生も校長、教頭、一般教員2人の計4人体制になる可能性があります。

今後、本村の児童生徒数が一人でも多くなるように努力し、効果的な施策や事業を行っていきます。

なお、平成27年度の出生数は21人となっていて、明るい話題だと思っています。



平成27年度一般会計補正予算

4455万9000円
減額！

3月
定例会

第1回定例会は3月10日に開会し、17日に閉会しました。
議案件数は43件で、専決処分2件、条例制定4件、条例改正12件、計画策定1件、指定1件、人事案件2件、新年度予算7件、補正予算7件、陳情3件、議員発議案4件が上程され、すべての議案が原案通り可決されました。

平成27年度補正予算

- 一般会計補正予算
4455万9千円を減額し、総額38億2733万3千円とする。
- 水道特別会計補正予算
8千円を減額し、総額4547万5千円とする。
- 農業集落排水事業特別会計補正予算
101万3千円を減額し、総額7385万5千円とする。
- 国民健康保健特別会計補正予算
774万6千円を減額し、総額4億4872万2千円とする。
- 診療所特別会計補正予算
498万8千円を減額し、総額7926万円とする。
- 介護保険特別会計補正予算
2281万3千円を減額し、総額2億3555万1千円とする。

平成28年度予算

45億円を承認！

予算特別委員会に付託した新年度予算は、原案通り可決されました。

議員報酬の賞与を引き上げ！

社会情勢および管内議会の動向を鑑み、議員期末手当の支給率を改正しました。

村長・副村長・教育長の報酬と賞与を引き上げ！

社会情勢および管内町村の動向を鑑み、特別職の報酬を改正しました。

	月額報酬	賞与
村長	734,000→782,000円	4.1→4.2ヶ月
副村長	623,000→649,000円	
教育長	574,000→586,000円	
議長	307,000円	
副議長	246,000円	
委員長	219,000円	
議員	193,000円	

「つるぼーの家」を指定管理に！

村の農畜産物や加工品などの特産品を村内外へ周知・販売する地域特産品等販売促進施設「鶴居たんちようプラザつるぼーの家」の指定管理者に、(株)鶴居村振興公社が指定されました。期間は平成28年4月1日から2年間です。

人権擁護委員の推薦を承認！

人権擁護委員は、村長が候補者を選び、議会が承認を得て法務局に推薦した後、法務大臣が委嘱します。任期は7月1日から3年です。

地域の皆さんから人権相談を受け、問題解決のお手伝いや、法務局の職員と協力して人権侵害による被害者の救済を行います。



宇野 健一氏
(再任 65歳)



渡辺 巖氏
(再任 72歳)



補正予算・条例制定

Q & A

ここが聞きたい

補正予算

松井洋和議員

問 高校通学バス運行補助金220万円が、今回190万円も増額されているのは？

答 通学バス利用者の年間延べ人数が、26年度は鶴居線が244人、幌呂線が39人だったのが、27年度は鶴居線が129人、幌呂線が45人となっております。鶴居線の乗車人数が大幅に減少したことが増額の理由です。

秋里広志議員

問 鶴居小学校はオール電化の建物ですが、電気料金が325万円も増額した理由は？

答 27年度は北電の割引制度の廃止を受け電気料金が値上がりしたため、27年4月よりクルトラスト社から北電より5%安い電気を購入していますが、それでも増額する状況になっています。

及川満浩議員

問 ほのぼのセンターの利用者数の減少により、当初予算では3000万円の収入見込みが575万円減額補正されています。利用者数が減少した主な要因は？

答 介護施設に入所されたり、お亡くなりになられるなど、色々な理由で利用者が減少したものと考えています。

吉田保博議員

問 選挙年齢が18歳以上に引き下げになりますが、本村では何人くらい？

答 現時点では57人です。

鶴居たんちようプラザ「つるぼーの家」条例制定

松井洋和議員

問 道の駅などは年中無休だと思つていますが、特産品の販売と観光の情報発信を担う「つるぼーの家」で閑散期に休館日を設定するのは？

答 閑散期は体制を縮小し、休館日を週1日設けてスタッフの休日を確保する予定ですが、動向を見て検討したい。

松井広道議員

問 休館日に訪れた人達の、本村に対するイメージの低下が心配です。

答 今後、運営コストなども考慮しながら検討したい。

吉田保博議員

問 陶芸教室やチーズを作っているサークルなどの作品は、現状ではその販売は困難なようですが、今後販売できるようにありませんか？

また、一般住民も含め村全体で6次化に向かう必要があるのでは？

答 難しい問題もありますが、6次化を含め前向きに検討したい。

問 生乳の販売は？

答 難しい問題が多々あると考えています。

大津泰則議員

問 役場の施設を使って作った作品や食品を販売することに、規則や規制上の問題はないのですか？

答 現状の条例・規則では販売することはできません。慎重な検討が必要と考えています。

また、食品に関しては保健所などでの厳しい規制があると思います。



18歳選挙を学ぼう

総務省ホームページより

問 他市町村の特産品を販売するのも理解しますが、売り場面積に限りがあるので、どのような考え方で売り場の構成を？

答 地元の特産品が最優先です。鶴居ならではの特産品の開発に努めます。



たくさんお客様が来ますように！





書 見 意

提出 へ 国



子ども医療費助成に係る国保の国庫負担減額調整措置の廃止を求める意見書

提出者 大津泰則
賛成者 東 隆行

及川満浩
松井洋和

我が国は、少子化により重大な岐路にたたされているところであり、若い世代が安心して結婚・子育てのできる環境整備に向けて、子育て負担の大胆な軽減など、少子化対策の抜本的強化を図らなければならない。

一方、子どもの医療費助成は、疾病の早期判断と早期治療を促進し、子育て世帯の負担軽減を図ることを目的として、全ての都道府県において、乳幼児医療費の無料化を含むさまざまな助成制度を実施しているが、厳しい財政状況の中で地方

単独事業であるため、結果として、助成対象年齢や自己負担額などに地域間格差が生じている実態にある。

さらに、地方自治体が行っている乳幼児等に対する医療費助成については、少子化対策に関する重要な施策にもかかわらず、国保の国庫負担金や普通調整交付金が減額調整されており、施策推進の大きな支障ともなっている。

よって、国においては子育て支援の観点から、全ての子どもを対象とした医療費助成が制度化されるまでの間、地方自治体が行う子どもの医療費助成に係る国保の国庫負担減額調整措置を廃止するよう強く要望する。

診療報酬を引き下げず、地域医療を守ることを求める意見書

提出者 及川満浩
賛成者 大津泰則

東 隆行
松井洋和

2016年度は診療報酬改定の年に当たり、財政制度審議会は政府予算編成に向けた意見書をまとめ、薬価とともに医師の技術料も含めて「マイナス改定が必要」とした。医療技術の質を保つために必要な報酬が手当てされなければ、国民は安心して医療機関にかかれず、かかりたい医療が保たれず、かかるといえない患者の負担は深刻となり、診療報酬の引き下げは医療機関の経営を危機に追い込むことになる。

また、政府は公立病院への交付税算定基準を許

可病床数から稼働病床数に切りかえた。

このことよって、交付税措置額が減少し、僻地、救急医療など不採算部門を担っている公立病院の経営は一層厳しいものとなる。

道内医療機関における病床削減は、出産のできる医療施設や救急医療の受け入れ施設が減少している現状に、さらに拍車をかけることになり、広大で積雪・寒冷といった地域の実情を踏まえて、議論していくことが肝要である。

よって、次の事項について強く要望する。

- 1 診療報酬の引き下げは行わないこと。
- 2 公立病院の運営に対する地方財政措置の充実・確保を図ること。
- 3 地域の医療需要を満たす医療提供体制を構築すること。

一般質問

村政のここを問う

7人の議員が12項目の質問

地域おこし協力隊の今後は！

定住・定着のサポートと増員は？

本人の意向を確認した上でサポート！

増員は明言できないが前向きに検討！

秋里 広志 議員



鶴居村として初めての地域おこし協力隊も2年目を経過中です。

道内外での物販や観光のPR活動、村の事業や地域の行事などにも積極的に取り組んでいます。

隊員の関わった事例や本人の思いも加えて、「広報つるい」で毎月報告も行われており、それらを見て多岐にわたる活動で、本当にご苦労さんとの思いもします。

この取り組みについては、平成26年12月の定例会で吉田議員の質問に村長からの答弁があり、「都市部から積極的受け入れを行い、隊員を村に定住・定着してもらうなかで村の活性化をはかりたい。そのため隊員の計画的増員も、検討していきたい」とのことでした。そこで、これまでの経過を踏まえ、初期の目的（隊員の定住・定着）に向かっているのか、その

ためのサポートはできているのか、また隊員の増員についてはどうなのかを村長に伺います。

大石 村長

本村では、平成26年7

月より国の支援を活用して、1名の地域おこし協力隊員を登用しています。

隊員は、これまで地域や団体などの積極的な関わりにより、村民の活力を育み、地域の活性化に大きな貢献をしております。

村としては、地域おこし協力隊員として培って



今や鶴居村PRの顔です！

さらに、道内外での観光PR、村の情報発信などにも意欲的に取り組んでいたなど、隊員としての使命を存分に発揮されているものと、高く評価しています。

そこで、「隊員の定住・定着」を目指した初期の目的に向かっているのかなと言ふことは、当然、隊員の意向が尊重されるものです。

また隊員の増員については、今後、各種政策を推進する上で、人材の専門性や必要性を充分に考慮した上で、隊員の確保に努めていかなければならないと考えています。

地域おこし協力隊は、地方創生の推進や、地域社会を支える新たな担い手として大切な人材ですので、現時点では、新たな隊員の確保について明言できないものの、地域や行政課題などを整理しながら、前向きに検討したい。



松井 洋和 議員



よりよい地域包括ケアシステムの構築 高齢者が安心して暮らせる介護・医療システムを！

平成29年度からスタート！

村内の医療機関や関係団体との連携強化を図り着実に！

厚生労働省は、団塊の世代が75歳以上となる2025年度をめどに、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制「地域包括ケアシステム」の構築を推進しています。

「地域包括ケアシステム」は、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて自治体作り上げていくものですが、言い換えると、それぞれの自治体で支援・サービスの提供体制に格差が生まれるものだと思います。本村の高齢者が安心して暮らすためにはとても重要なこのシステムの現状と、村長の見解を伺います。

大石 村長

国は、今後急速に進む超高齢社会を見据え、平成26年に介護保険法を改正し、「地域包括ケアシステムの構築」と「費用負担の公平化」を目指しました。

しかし、都市部に比べ、専門職の確保が難しい過疎地域などでは、「地域包括ケアシステム」の構築が難しく、どの自治体も困難な課題を抱えているのが現状です。そこで本村では、「地域包括ケアシステム」の構築に必要な「生活支援サービス」の充実・強化に向

け、ボランティアなどの生活支援の担い手の育成や発掘など、地域資源の開発やネットワーク化などを業務とする「生活支援コーディネーター」の配置業務を、社会福祉協議会に委託する計画をしているところ です。

また、在宅医療・介護連携推進のため、高齢者やその家族が24時間、医療や介護に関する電話相談ができるよう、関係費用の計上も行っていきます。引き続き村内の医療機関や関係団体との連携強化を図り、村としての取り組みを着実に進めます。



楽しいほのほのセンター

病児・病後児保育は？ 親が安心して働ける環境を！

方向性を見出したい！

子ども・子育て支援計画の着実な推進！

いでの項目があり、ニーズ調査による利用希望があることから、必要に応じた検討を行うとしていきます。病児・病後児保育は当事者にとってはとても深刻な問題であり、他の子育て支援事業と連携しながら早急に推進すべきと思うのですが、村長の見解を伺います。

大石 村長

子どもが感染症などの病気にかかり、保育園に行くことができず、親も仕事などのために休めない時に、親に代わって保育士・看護師が、適切な保育看護を行うことを「病児・病後児保育」といいます。都市部では病児・病後児保育を行う施設がありますが、小さな自治体では少ないのが現状です。本村では平成27年4月に作成した「鶴居村子ども・子育て支援事業計画」に病児・病後児保育につ

今後も、恒常的支援である保育事業や、未対応の保育ママ事業、そして一時預かり事業である社会福祉協議会の「ファミリーサポート事業」への支援を行い、引き続き子どもたちの健全育成や保護者の負担軽減を図りながら、本村の「子ども・子育て支援事業計画」の着実な推進を図りますので、これら事業を推進する中で「病児・病後児保育」について、今後の村の方向性を見出したいと考えています。

プラ容器包装の収集を変更する理由は！ 再利用、再資源化に逆行しているのでは？

最終的に焼却炉の助燃剤として処分！ レジ袋の削減も目的の一つ！



松井 広道 議員

平成17年7月から、ごみの排出抑制と再利用、再資源化を目的に分別収集を行い、資源ごみの収集品目を的確に分類し、可燃ごみ、不燃ごみ、粗大ごみの有料化を実施し、ごみの減量化を進めながら、適正なごみの排出を行ってきました。

しかし4月から「プラスチック容器包装」を可燃ごみと一緒に収集し、焼却します。

本来プラスチックに付いているリサイクルマークは、地球上の限りある資源を再利用、再資源化するものであり、環境問題など学校教育にも取り入れ指導を行っているのに、なぜ今回、取扱いを変更するのか伺います。

① 今回の変更のねらいはどこにあるのか？
② 広域連合内での分別方法はどのように行っているのか？

大石 村長

プラスチック製容器包装を可燃ごみ収集にする変更ですが、資源ごみの収集については、各家庭からの搬出量が多く、収集体制の改善が課題となっていました。

昨年秋の村政懇談会でも、同様の要望がありましたが、月2回の収集を週1回の収集に改めるのは、現状の収集体制では困難であり、収集経費の側面からも難しい旨を伝えながら、今後の検討課題としたところです。

① 資源ごみの中でも一番量的に多い、プラスチック製容器包装が、釧路広域連合のごみ焼却炉で助燃剤として最終的に焼却されていることなどを考慮し、可燃ごみの週1回の収集時に無料で回収し、住民サービスの向上に役立つものと判断したものです。



助燃材になります

さらに、プラスチック製容器包装回収容器に入れる際に、レジ袋が利用されていて、この削減を進めることも変更する理由の一つです。

② 釧路広域連合を構成する5市町村（釧路市・釧路町・弟子屈町・白糠町・鶴居村）では、それぞれの計画に基づいた取り組みが行われ、プラスチック製容器包装も、容器包装リサイクル法に基づいて、消費者、市町村、事業者の3者の役割分担

のもと、適正処理による削減の取り組みが進められています。

本件のプラスチック製容器包装は、平成11年のごみ分別見直し当初は、選別破碎し紙と混ぜ合わせ固形燃料となり、地元製の製紙工場の燃料として使用されていましたが、3年ほど前からは、選別破碎したものは、釧路広域連合の清掃工場の焼却炉の発熱量改善資材として使用されています。

議会だよりに対するご意見・ご要望をお寄せ下さい！

次回定例会は6月下旬予定です

お問い合わせ先 議会事務局 (64) 2511
メールアドレス turuimura21@yahoo.co.jp



吉田 保博 議員



村の交通安全対策は？

案内看板・標識の見直しと交通安全対策！

大型誘導看板を2基設置！看板・標識は関係機関と協議！

交通安全教育の徹底と安全運動の普及・啓発に努める！

村は道東自動車道阿寒インター開通による交流人口増加に期待して、「鶴居たんちようプラザ・つるぼーの家」を新設、また「温根内ビジターセンター」の改築も決まりました。

交流人口が増加することで、交通量の増加、特に大型車の通行の増加が予想されます。

阿寒インターから鶴居経由で弟子屈・標茶へ、弟子屈・標茶から鶴居経由で阿寒インターへの距離が近くなります。

28年度予算に大型案内看板の新設も予算措置されていますが、村内全体の案内看板・道路標識の見直し、新設が必要とされています。

また、通学路の安全点検など、交通安全の対策も必要と思いますが見解を伺います。

大石 村長

村では、道東道阿寒ICからの観光客や滞留する入込客を誘導するため、道道53号線と道道徹別原野釧路線と交差する釧路市北斗付近に3町村合同

での大型誘導看板の工事費として915万円、また、美しい村づくりを啓発する歓迎看板232万円を合わせて予算計上しました。

現在、道道沿線には各種看板が多数設置され、景観上からも一部配慮が

必要な箇所も見られるので、今後、可能な限り効果的かつ効果的な看板の整理に向けて検討し、必要であれば関係機関と協議したい。

通学路の交通安全対策については、危険な箇所

の把握と児童生徒や保護者への周知、教職員や交通指導員による巡視・指導、こぐまクラブなどを通じて交通安全教育の徹底に努めており、今後も交通安全運動の推進に向けて普及・啓発活動に努めたいと考えます。

交通安全運動の推進に向けて普及・啓発活動に努めたいと考えます。



待望の「阿寒IC」開通！

施設・車両の防犯対策は？

防犯カメラ・ドライブレコーダーの導入！

防犯カメラの設置は考えていない

ドライブレコーダーはまず救急車両に導入！

大石 村長

役場や学校などに防犯カメラを設置することは、抑止力や事件後の検証作業に有効ですが、不特定多数の方々が訪れる公共施設では、不審者をあらかじめ選別することは困難であり、また、常時、防犯カメラで監視する人も必要となります。

さらに、村民が多く出入りする施設での個人プライバシーへの配慮や、常に開かれた役場でありたいという姿勢と相いれないものもありますので、当面、設置すること

は考えていません。次に、ドライブレコーダーの装備については、28年度予算で救急車に1基装備します。

村の公用車については、今後、使用頻度の高い村長公用車やバス車両などに順次装備していきたいと考えています。

村の主要施設には防犯カメラの設置は無いと聞きます。村民や職員の安全を守るため、また、犯罪の防止対策として主要施設への防犯カメラの設置や公用車にドライブレコーダーを搭載して村内の安全点検に利用するなど、有効な方法だと考えます。村民の安心安全、村の防犯対策について見解を伺います。

コンビニATM設置は？ 更なる住民サービスの拡充を！

要請を引き続き行っています！

生活環境の充実や利便性の確保は大切な施策



佐藤 吉人 議員



今や社会資本の一部です

村政懇談会で、下幌呂地域から要望のあったコンビニATMの設置について、企業からは「店舗利用率などから設置基準に至らず設置は困難」との回答があり、村からは「今後も現状に変化が見込まれない場合には、一般金融機関との連携などによるATMの設置の可能性について模索したい」との回答がありました。

昨年の村政懇談会終了後にも再度、コンビニ運営企業に対し、地域からの強い要望がある旨伝えましたが、現状の店舗利用状況からは設置は困難との回答がありました。村としては地域住民の思いを充分理解をした上で、生活環境の充実や利便性の確保が大切な施策であると認識していますので、今後も企業に対する要請を引き続き行っていきます。

大石 村長

障がい者への合理的配慮は？

障がい者差別解消法が施行されます！

可能な限り対応を行います！

今後も障がい者の方々の声を反映

大石 村長

障がいを理由とする差別の解消を推進することにより、すべての国民が障がいの有無によって分けへだてられることなく、相互に人格と個性を尊重しあいながら共生する社会の実現を目指す「障がい者差別解消法」が新年度より施行されます。当然、公共施設なども障がい者への合理的配慮が求められるますが現状と法律施行後の対応について伺います。



障がい者にやさしい対応をします

合理的配慮の提供については、国や地方公共団体は法的義務とされ、公共施設の利用や各種行事の実施の際には、障がいのある方が不利益を被ることのないよう、可能な限り対応を行うようにします。

「鶴居村障がい者自立支援協議会」では障がい者関係団体の委員より、村内における差別的取り扱い事例や合理的配慮提供の欠知などの報告をいただいております。3月末までに要領策定を目指しています。

大石 村長

年間売上額は1400万円、来店者数は日65人、年2万2000人、顧客数50%、持ち帰り客単価350円、物販商品単価700円程度を想定しています。

管理運営費は仕入れ費とスタッフ4人分の人件費で1500万円と想定し、指定管理料として今年度予算に計上しました。

「つるぼーの家」の経営計画は？

*4月28日開業！

年間売上額1400万円
指定管理料1500万円

本施設の開業も4月28日となり、急ピッチで作業が進められています。現時点で経営計画が示されていませんがどのようになっているのか伺います。



地域を維持するために農家戸数の維持を！
TPP協定が発効後も生産力は維持できるというが？

村としても最重要な課題！

持続的に営農が推進できるよう各種取組を支援・強化！



及川 満浩 議員

大石 村長



これ以上の農家戸数減少は厳しい！

国のTPP関連予算は6次産業化、海外への販売戦略、より大規模化による国際競争力を強化するなどです。このような対策でTPP協定が発効後も生産力は維持できるとの国の見解です。

しかしながら、地域を維持するためには農家戸数の維持が重要ではないでしょうか。村の考えと対応を伺います。

国は平成27年度補正予算に、TPP関連政策大綱に基づく体質改善化対策を盛り込むとともに、平成28年度予算にも、輸出促進や経営力向上など「攻めの農林水産業」を展開しています。

本村でも、「鶴居村人口ビジョン」の人口現状分析によって明らかになった人口構造や人口減少の要因を基に、将来のめざす姿を実現するために必

要な施策・事業を体系的に整理し、数値目標とともに示す「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定したところです。

その中の具体的な施策と事業の数値目標では、農業経営体数について乳質改善奨励事業や新しい農業支援など、さまざまな村の施策を実施することにより、平成22年2月現在の基準値91経営体から平成31年度末の数値目標93経営体と、新規就農分の2経営体分の増加を見込んだ計画としています。

こういったことから、農家戸数の維持は地域や農地の維持と密接に関連し、村としても重要な課題と考えており、農協や関係機関などより連携協力を図りながら、将来にわたって本村地域の酪農をはじめとする農業が、持続的に営農が推進できるように各種取り組みを支援強化したい。

各種検診で聴力検査の実施は？
障がい者の認定への援助を！

純音聴力検査の実施は困難！
障がい福祉制度の周知・普及啓発に努める

を知らずに聴力低下によって日常生活に支障が出ている人たちに対して、各種検診などで聴力検査の実施による医療機関への受診機会の提供を行うことは、介護や医療面で有益と考えますが、村の考えを伺います。

大石 村長

集団検診の委託先である機関や鶴居診療所では、専門的医療機関で実施される、125〜8000ヘルツまでの7つの周波数の聞き取り検査する「純音聴力検査」の実施は、検査機器や検査技師等の確保、検診後の判断基準などから、現在の健診項目に聴力検査を追加することは極めて困難です。

しかし、高齢者の生活の質の向上のため、引き続き高齢者への相談体制の充実を図りながら、各種障がい福祉制度の周知や普及啓発などに努めたい。

下幌呂分譲地の現状認識と今後！

今後の公共施設の誘致の検討は！

昨年度は販売開始時期が遅れたため1区画のみの成約

将来的には新たな住宅支援制度の創設が検討課題！
公共施設の誘致は将来の地域課題と認識！



大津 泰則 議員

27年度の私の一般質問では、「まち・ひと・しごと創生法」が制定されたこと、
① 高齢者住宅問題。
② 第2子からの出産祝い金と雇用の場の確保。
③ 人口減の歯止めの一策として、組織を見直しての職員数の増加。
などを質問し、前向きな答弁をいただきました。先日「鶴居村まち・ひと・しごと創生総合戦略」が成案となり、私も戦略会議の委員として、2060年に人口20000人を達成するための各種施策の後押しを、しっかりとしていきたいと思っています。

そこで、現在も将来も人口減少の歯止めのためであり、総合戦略のなかでは宅地販売で一定程度の転入超過を見込み、社会増の基礎になっている下幌呂分譲地の今後について伺います。

① 現在1区画しか販売できていない要因は、PRも検討すべきでは。
② テレビなど積極的なPRも検討すべきでは。
③ 現在、「夢の杜団地」の世帯主は、60代以上が33%となっており、将来を見据えて空き家対策も検討しておくべきでは。

④ 順調に販売が進んだ場合には、役場支所や郵便局などの公共施設の誘致も検討すべきでは。

① 現在1区画しか販売できていない要因は、PRも検討すべきでは。
② テレビなど積極的なPRも検討すべきでは。
③ 現在、「夢の杜団地」の世帯主は、60代以上が33%となっており、将来を見据えて空き家対策も検討しておくべきでは。

④ 順調に販売が進んだ場合には、役場支所や郵便局などの公共施設の誘致も検討すべきでは。



鶴居村へ移住しませんか？

区画のみの販売となっていて、
① 定住・移住促進事業として各種事業に取り組んでおり、昨年度も移住促進パンフレットなどの製作によるPRや、道内外での移住促進ブースの開設、地元情報誌などへの掲載などを行い、広く周知を図っています。
第3期夢の杜の販売状況が最も好調であった要因を考えますと、下幌呂夢の杜団地の評価や、消費税改定前の駆け込み需要の効果も一部あったものと考えています。

また、土地の動きは春先が活発化しますが、販売開始時期が7月末からだったので、时期的なことも要因と考えています。現状ではその予定はありませんが、東京など主要都市でのPRブース開設回数増加や、新聞広告などへの掲載を図るなど、取り組みを充実させたいと考えています。

昨年7月より販売を開始した希の杜団地は、購入希望者からの問い合わせはありますが、現在1

また、土地の動きは春先が活発化しますが、販売開始時期が7月末からだったので、时期的なことも要因と考えています。現状ではその予定はありませんが、東京など主要都市でのPRブース開設回数増加や、新聞広告などへの掲載を図るなど、取り組みを充実させたいと考えています。

下幌呂分譲地は、平成4年度の販売開始から昨年度の希の杜分譲地販売まで、全99区画中、72区画の販売が完了し、7割ほどの販売実績となっています。

また、土地の動きは春先が活発化しますが、販売開始時期が7月末からだったので、时期的なことも要因と考えています。現状ではその予定はありませんが、東京など主要都市でのPRブース開設回数増加や、新聞広告などへの掲載を図るなど、取り組みを充実させたいと考えています。

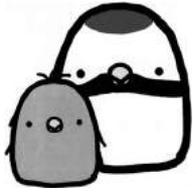
③ 空き家対策については、下幌呂分譲地の年代ごとの世帯数が20代〜40代までが4割、50代〜70代までが6割ほどとなっており、10年先20年先を見据えた場合、分譲地内に空き家が発生することも危惧されます。

また、土地の動きは春先が活発化しますが、販売開始時期が7月末からだったので、时期的なことも要因と考えています。現状ではその予定はありませんが、東京など主要都市でのPRブース開設回数増加や、新聞広告などへの掲載を図るなど、取り組みを充実させたいと考えています。

大石 村長

区画のみの販売となっていて、
③ 空き家対策については、下幌呂分譲地の年代ごとの世帯数が20代〜40代までが4割、50代〜70代までが6割ほどとなっており、10年先20年先を見据えた場合、分譲地内に空き家が発生することも危惧されます。

③ 空き家対策については、下幌呂分譲地の年代ごとの世帯数が20代〜40代までが4割、50代〜70代までが6割ほどとなっており、10年先20年先を見据えた場合、分譲地内に空き家が発生することも危惧されます。



委員会報告します

総務常任委員会

3月16日に総務常任委員会を開催しました。

出席議員

- 委員長 大津泰則
- 副委員長 松井洋和
- 委員 松井広道
- 委員 東 隆行
- 委員 及川満浩
- オブザーバー 松井宏志

意見書の取り扱い

3月10日に付託された意見書について協議しました。

「子ども医療費助成に係る国保負担減額調整措置の廃止を求める意見書」と「診療報酬を引き下げず、地域医療を守る事を求める意見書」は採択することになりました。

「介護保険の生活援助サービスの制限中止に関する意見書」は閉会中の継続審議としました。



2月24日に鶴居消防署会議室で「鶴居消防署職員との意見交換会」を開催しました。
(20・21ページ参照)

産業常任委員会

1月29日に釧路市校田の野村敏充牧場を訪れ「バイオマスエネルギー先進事例調査」を行いました。

出席議員

- 委員長 吉田保博
- 副委員長 佐藤吉人
- 委員 秋里広志
- 委員 東 隆行

野村牧場は、環境配慮型酪農を目指して、家畜糞尿によるバイオガス発

電事業に10年前から取り組んでいます。

野村さんが巨額の投資をしてまで家畜糞尿バイオガスプラントを導入したのは、将来、経営移譲をするときに、クリーンな事業者として事業活動ができるようにと考えたからだそうです。

現在の野村牧場での、バイオガス発電事業による最大のメリットは、副産物の匂いのない液肥により土壌改良され、良質な牧草が収穫できるようになったことで牛が健康になり、搾乳年数が大幅に伸びたことと、乳質が改善されたことだそうです。

2月26日に「酪農振興会鶴居支部との意見交換会」を開催しました。
(22・23ページ参照)

議会運営委員会

2月8日に「議会の活性化」について協議しました。

・全員協議会の定例化については、毎月開催することを決定しました。

・「議員期末手当の支給率改定については4・2ヶ月とする条例改正案を提出することを決定しました。

・「議決事件条例の改正について」は、2つの事件を追加することを決定しました。

3月3日に3月定例会の運営について協議しました。

出席議員

- 委員長 松井 洋和
- 副委員長 大津 泰則
- 委員 吉田 保博
- 委員 佐藤 吉人
- 委員外 松井 議長
- 説明員 山田 副議長



◆第1回臨時会◆

3月29日に第1回臨時会を開会しました。提出議案は1件で原案通り可決されました。

◆Q&A◆

及川浩浩議員

地方創生加速化

交付金!

460万円

1億総活躍社会の実現に向けて緊急に実施すべき対策の緊急対応として、「地方版総合戦略」に位置付けられた先駆的な取り組みの円滑な実施を支援するため、国の平成27年度補正予算における「地方創生加速化交付金」の対象事業として460万円が採択されました。

北海道くしろ地域・東京特別区交流推進事業

420万円

日本で最も美しい村

推進事業

40万円

問 釧路管内8市町村で東京23区交流推進員を600万円(鶴居村75万円負担)で配置する内容は?

答 東京でのコーディネートを1人採用します。大津泰則議員

問 プロモーション活動やマルシェ開催などの職員派遣旅費75万円の内容は?

答 教育旅行誘致など、3泊程度の派遣を5回予定しています。

吉田保博議員

問 北海道と釧路管内8市町村の統一した連携が大切では?

答 詳細な協議はこれからですが、足並みを揃えて事業推進します。

◆広域議会◆

釧路公立大学事務組合
12月定例会

秋里広志議員より、「平成26年度釧路公立大学事務組合会計決算認定の件」が原案通り認定された報告と、「平成27年度釧路公立大学事務組合会計補正予算について」が原案通り可決された報告がありました。

次に「監査委員の選任について」は、釧路町議会議員の倉井氏が再任された報告がありました。

また、開学から28年目を迎え、1600人の学生が在籍しており、釧路管内にとって大きな存在となっております。

釧路広域連合議会

2月定例会

東隆行議員より、「平成28年度釧路広域連合一般会計予算」が原案通り可決された報告がありました。

第1回釧路北部消防事務組合定例会

吉田保博議員より、「損害賠償の額を定めること」・「釧路北部消防事務組合行政不服審査会条例の制定」・「釧路北部消防事務組合情報公開条例の改正」など、5件の条例改正が原案通り可決された報告と、「平成27年度釧路北部消防事務組合一般会計補正予算の件」・「平成28年度釧路北部消防事務組合一般会計予算の件」が原案通り可決された報告がありました。



日夜訓練に励んでいます!



入園式



入学式



卒業式

議員が参加した行事

議会傍聴に来ませんか?

議会だよりでは伝わらない情熱が、議場にはある

次回定例会は6月下旬予定です



意見交換会

鶴居村の防災体制の現状と課題について！

2月24日に鶴居消防署にて高田勝也署長を始め職員4名と総務常任委員会の意見交換会を開催しました。

参加者

鶴居消防署

署長 高田 勝也

*予防救急課

課長 川村 公基

課長補佐 早川 宜志

予防広報係 高平 将臣

*警防管理課

課長補佐 加藤 由博

総務常任委員会

委員長 大津 泰則

副委員長 松井 洋和

委員 東 隆行

委員 松井 広道

委員 及川 満浩

事務局長 小北 隆男

消防体制

●消防署の職員数に規程はあるのか？

市町村が火災の予防・警戒、救急、救助、通信、災害応急対応など、消防の任務遂行を果たすために「消防力の整備指針」により人員配置が示されている。鶴居消防署の人員は指針とは相当な差があり、救急車1台を運用するための人員配置である。

●勤務時間外での拘束は？
勤務日に24時間拘束されるのは消防職員として当然であるが、勤務者だけでは救急車運用の対応しかできず、非番・週休者に必然と慢性的に拘束をかけており、勤務とプライベートの区別がない部分も多い。

消防は要請に対し「行けません」「対応できません」と言うことが難しい機関で、現在は職員の意識の高さにより出動体制を確保しているが、職員の最大のストレスになっていることも事実である。

●消防本部への人事異動について

弟子屈町、標茶町、鶴居村で構成する釧路北部消防の消防本部職員（現在7名）構成について、3町村の職員により構成することで組織の活性化、事務効率の向上が図られとの考えで、平成28年度



に鶴居消防署から消防本部への人事異動を行う。今後、複数の人事異動も考えられ、その場合、鶴居消防署の体制も脆弱になることが懸念される。

北部消防全体で適正な職員体制の確立を図ってほしい。

●女性消防職員の採用は？

救急業務や防火指導など女性消防職員が活躍する業務も少なくない。

女性消防職員の活躍に対する検討報告も示されているが、現在の鶴居消防署の体制では、全ての消防業務への関わりが必要となることから、積極的に女性消防職員の採用は考えていない。

●職員教育、資格取得について

救急病院がない地域だからこそ救急救命士は必要と考える。災害出動が少ないからこそ専門教育で経験を補う必要があると考える。

今後有用な資格取得や教育については、必要性を理解いただき遅滞なく進めていきたい。

●今後の消防団体制は？

懸案であった下幌呂地区に消防団組織を設置することができ、村内の消防力の向上が図られた。

4分団体制となつてから人口動態も変化したのが、配置的にバランスがとれている。各分団とも団員を確保してくれており、当面、現在の体制を維持していきたいと考えている。

●下幌呂地区への職員の配置は？

下幌呂消防部の詰所の完成により、職員を配置すると思われる村民もいると聞いている。

以前、幌呂地区に消防職員を配置することを検討されたと聞いているが、常備消防組織は、365日24時間体制であり、職員を配置することになれば、相当数の職員増員が必要となる。

鶴居消防署の所在地も村内の中心に位置しており、現状では下幌呂地区への職員配置よりも鶴居消防署の体制強化が重要と考えている。

総務常任委員

よりよい「村づくり」のために！

災害対策と

広域連携

●大災害発生時に応援体制は？

北部消防はもちろんのこと、北海道広域消防相互応援協定により、隣接する釧路市消防本部、釧路東部消防組合および北海道内の消防本部に必要に応じて、応援を要請することができる。

また、道東ドクターヘリや北海道防災ヘリの要請や北海道内の消防応援だけでは対応困難な甚大な災害発生時には、緊急消防援助隊の応援要請も可能である。消防組織としては系統立った応援要請が確立されている。

●防災訓練や災害への関心を高めるための工夫は？

昨年、はじめて住民参加型の防災訓練を実施し、少数ではあったが自主的に訓練に参加してくれた村民もいた。

東日本大震災以降、鶴居村でも防災への関心は高まっており、署員と団

員合同の防災図上訓練、

中学生の防災宿泊訓練、

婦人団体の防災研修、日

赤奉仕団や女性消防団員の

炊き出し訓練などを実施し、

広報している。今後、

鶴居村とより連携し村民に

防災に関心を持ってもらえるよう

防災訓練や情報提供に工夫を凝ら

したい。

●防災体制の主導は！

防災計画は基本的に村が主導するものであり、

消防が主体となるものではない。

実際に災害が発生した時に、

消防は最前線での災害対応となる。

鶴居村防災計画に沿った、

それぞれの役割の認識を持つことが重要である。

防災訓練は村が実施して

消防が協力する形で行うのが

本来の形であるが、今は

消防が主体となっている。

実際、消防が防災の中心を

担っていると思っ

ている村民もいる。

危惧しているのは、

災害発生時に防災対応を迫

られ、本来の消防業務に

支障を来たすことである。

議会の防災対応

●防災計画での役割は？

現在、鶴居村防災計画での議員の役割は、事務局から連絡を受けることだけである。

議会として、災害発生

時の行動規範は必要と考

えるが、事務局から議員

へ連絡後は、議員自ら行

動して状況を把握してほ

しい。

消防や対策本部に電話

などで情報提供を求める

などの行為は業務を阻害

することになる。災害時

の協力行動の基本は、自

分のことは自分で賄うのが

原則である。

●災害対策「支援」本部の設置を！

議会の災害対応の先進地では、災害対策本部とは別に、災害対策支援本部として独自行動をとっている。

例えば、担当地区を割

振り、議員自ら被害状況

や指定避難施設の運営状

況などを把握した上で、

災害対策本部を支援する

役割を担うことが重要ではないか。

議会はあくまでも物事を

決定する機関であって

何かを対処する機関では

ない。現場の状況を把握

し、必要なこと必要な

ことを迅速に決定し対処す

る機関が議会である。

●自主防災組織

鶴居村には、自主防災組織がない。災害が少ないので難しい面もあると思うが、実際に避難所が開

設された場合の運営など心配な面がある。

上幌呂連合会では、災害時の炊き出しなどに対応

できるよう、食材の持ち寄りや

役割分担などを決めてい

る。

今後、各自治会単位での

防災訓練が必要である。

議員はリーダーシップを

発揮して行政の窓口に一

番近い役割を發揮してほ

しい。



●避難民の受け入れなどの広域的な対策！

東日本大震災級の大津波が発生した場合、近隣の市町で相当な避難民が鶴居村に避難することが予想される。近隣の市町との事前協議や避難民受入のシミュレーションなどの対策は必要と思う。



意見交換会

酪農振興会と酪農について！

平成28年2月26日に、

釧路丹頂農協酪農振興会
鶴居支部の役員を迎えて、

産業常任委員会の意見交
換会を開催しました。

参加者

酪農振興会鶴居支部

支部長 折笠 文則
副支部長 松井 俊治
役員 増田 慶一
役員 渋谷 忠裕
役員 合田 徳三
役員 野沢 幸弘
役員 藤沢 誠
役員 伊藤 和宏
事務局 安藤 隆幸
事務局 田中 郁尚

産業常任委員会

委員長 吉田 保博
委員 秋里 広志
委員 東 隆行
委員 松井 洋和
事務局長 小北 隆男

酪農振興会鶴居支部

現在、鶴居村の酪農戸数は72戸となっております。日々、安全安心で高品質な生乳生産に励んでいます。

鶴居地区では年間6万トンの生乳生産を目指していますが、今年度は念願の6万トンを達成できない予定となっております。これは、農家戸数は減

少していますが、乳牛頭数を維持しながら個体乳量の増加を図ってきた生産者の地道な努力と、農業関係機関と行政の大きな支えがあったからだと思います。

酪農振興会の活動は、会員同士の親睦を深めることや、情報交換の場を提供することが多く、パークゴルフ大会や酪農に関する講習会、視察研修などを開催しています。

農協改革

国の農協改革には組合長をはじめ、農協がきちんと対応してくれると思う。

農協には金融や共済は必要なのでそれぞれの地域に合った対応をして欲しい。

農協の一部資材などが民間に比べて価格が高いと言われているが、トータルで考えると決して高いとは思わない。

最近は銀行が安い金利で借りやすい融資をしており、鶴居でも銀行から融資を受ける農家が増えている。

借りやすさから農協と銀行の両方から融資を受け、それにより負債が膨らむことや、状況が変わって返済に困ったときにどうなるか心配している。

TPP

TPPに関しては、実際にどんな影響があるのか想像の範囲でしかないので、予測が難しい。

色々な人が色々なことを言っているので、どれが正解なのか判断できないが、だいたい農家の経営が悪くなる言っている。

我々の世代にはあまり影響がないと思うが、次の世代は大変になるのではないかと思う。

6次化

乳製品の6次化は食品衛生法の規制が厳しいため、設備にお金がかかるなど、農家個々での対応は難しい。

ワイン用のぶどう栽培を空いている農地で行ってはどうか。



夢と希望のもてる酪農に向けて！

産業常任委員

よりよい「村づくり」のために！

畜産クラスター事業

この事業は村、農協、地域が一体となり、鶴居村の農業の将来を構築するものだと思っていたが、実際には年一回の総会に出ても村の将来構想が見えない状態となっている。

畜産クラスター事業を有効に使うためにも将来構想の構築が必要だと思う。

ただ要望を出すだけの事業となっていると思うので、もっと話し合いをすべきではないか。

幌呂地区では大型利用組合を組織しているが、鶴居地区では地域それぞれで利用組合を組織している、農家戸数の減少により厳しい状況にある。

将来、TMRセンター化などを含めてどのようにしていくかが重要。



力強い基幹産業へ！

畜産クラスター事業は研修牧場にも使えるので、鶴居村でも考えてみてはどうか。

新規就農や酪農ヘルパーの確保など、研修牧場は今後、鶴居村にも必要となってくると思う。

バイオガス発電

バイオガス発電の副産物としての液肥が無臭でとても優秀である。

各地で家畜糞尿を利用したバイオガス発電事業を行っているが、問題点も多く、脱炭する農家もいると聞くので、システムや負担料金が重要になると思う。

別海町のバイオガス発電も、企業が施設の償却が終わったら撤退すると言っている、その後施設の補修や更新が心配になる。

乳質改善奨励補助金

この事業は村が良質乳1kgにつき1円補助する鶴居村独自の事業だが、補助対象の農家が9割に満たない状況なので、全農家が対象となるように乳質基準を3段階に分けて、それぞれ1kgに対して50銭、1円、1円50銭というように、より良質乳を生産した農家には手厚く補助し、乳質向上にも向かうようにすることも考えていいと思う。

経営の大変な農家を応援できるような補助金制度になるように考えないといけないと思う。

また、生産量の増加に対応するプレミアム乳価は難しいと思う。

TPP問題もあるので、農家の体力をつけるためにも、この補助金制度は継続すべきと思う。

婚活

費用はかかるが、テレビ番組で鶴居村のPRを兼ねて婚活を行ってはどうか。

婚活サポートの女性バーションも必要ではないだろうか。

釧路で開催している婚活パーティーに派遣するのも考えてみてはどうだろうか。実際に釧路の婚活パーティーに自ら参加し結婚している人もいる。





鶴居村

つるい議会だより

平成28年4月30日発行 149号

発行 北海道鶴居村議会
編集 広報広聴常任委員会〒085-1203 鶴居村鶴居西1-1
0154-64-2511

5年前に 安芸の国から 移住しました！

さいとう よしみ
齊藤 欣巳

私達家族が、鶴居村に

移住して丸五年が経ちました。この五年間を振り返ると、ご近所の方々、地域の皆様の支えがあったからこそ、この地で暮らしを営むことができています。心から感謝しています。

北海道へのUターンを決め、移住先を探し、私の「畑がしたい！」「子供達を自然の中のびのび育てたい！」という思いから、実家のある釧路ではなく、この鶴居村を選んだこと、本当に良かったです。と思っています。移住当初は、慣れない土地に

「広島に帰りたい」と言っていた長女ですが、タンチョウが頭上を飛んでいく姿に感動し、「鶴居に来て良かった！」と笑顔で言ってくれた時には、心がスッと軽くなり、とても嬉しかったことを思い出します。

そして、楽しみにしていた野菜作りは、試行錯誤の連続で、ご近所さんから立派な美味しい野菜とアドバイスをいただきながら、なんとか自分なりの美味しい野菜を作ることができました。

初めての薪ストーブに悪戦苦闘していた時も、優しく薪ストーブの焚き方を教えてもらい、雪が積もった時にはいつも除雪をしていただきました。お隣さんがいなければ、孤立していたことでしょうか。周りの皆様からの温かいご指導、ご支援のお

かげで、家族みんな今日まで成長することができています。

現在、村でのイベントや興味を持ったことには親子で参加し、とても充実した毎日を過ごすことができています。子供達には色々な経験や出会いを重ねて、人と人の繋がりを大切にしながら、人生という枝に果実を实らせてほしいと思っています。その実が熟するのはいつでしょうか(笑)。

その日を楽しみに、これから親子で、この自然豊かな鶴居村でしか経験できないたくさんの思い出を作っていきたいと思っています。

成功も失敗も含め全ての経験が、子ども達の良き思い出、宝物になると信じています。私が、そつであったように。

広報広聴常任委員会

委員長 佐藤 吉人
副委員長 松井 洋和
委員 大津 泰則
委員 及川 満浩



間伐と間伐材の有効利用を促進して健全な森づくりに貢献します。



親子でつるい丹頂群れ太鼓を楽しんでいます！